

FAEGER

農業由来カーボンクレジット活用による 地域支援型での脱炭素支援について

株式会社フェイガー

会社概要

社名

株式会社フェイガー
(英語表記 Faeger Co. Ltd.)

本社所在地

〒100-0004
東京都千代田区大手町2-2-1 新大手町ビル3階 0 Club

電話番号

+ 81 (03) 6824 -0769

創立

2022年7月

資本金

100,000,000 円 (2024年7月現在)

主要株主

経営陣 インキュベイトファンド
東京海上ホールディングス
農林中金キャピタル
環境エネルギー投資

従業員数

50 名 (業務委託含む)

事業内容

環境配慮型農業の推進に資するサービスの提供、
および農業由来クレジットの生成と販売

世界をもっとサステナブルに。
社会にもっとフェアネスを。

私たちは、
農家向け脱炭素施策の収益化と、
カーボンクレジットの
流通サポートを行っています。

フェイガークレジットのコンセプト

FAEGER

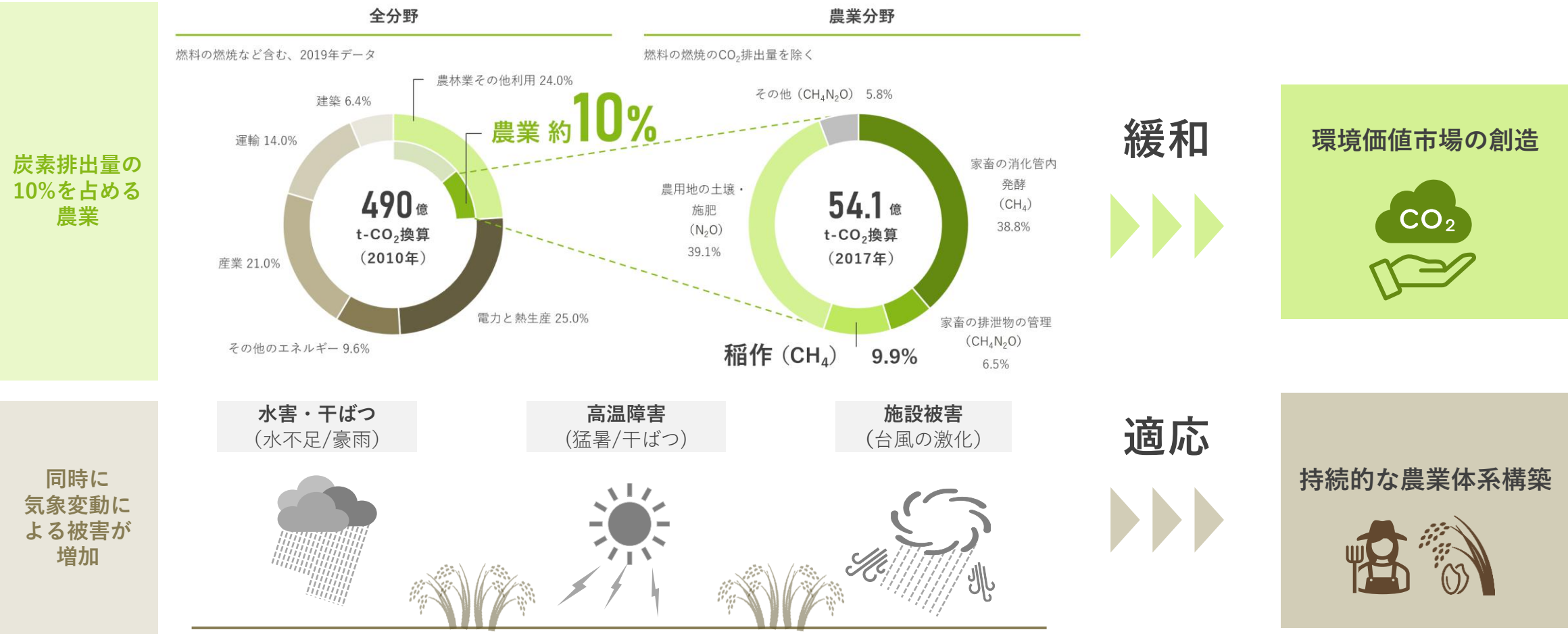
地域の米作りのサステナビリティに繋がるクレジット

私たちは企業のみなさまと共に、地域の米作りのサステナビリティにチャレンジしていきます

目指していること

フェイガーが解決したい課題の全体像

持続可能な農業（環境配慮・収益性・生産性を実現する農業）の実現を目指し、環境価値市場の創造・及び農業体系の構築を行っています。



「持続可能な農業」を成しえるための構造的な課題

気候変動に適応するための施策は既に複数ある一方、コストや地域全体での取り組み必要性など高いハードルがある。

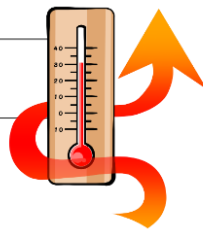
持続可能な農業を
阻むものは何か？

高温による影響

⇒ 品質・収量の低下

ex.

- 白未熟粒
- 害虫
- 育成不良
- 胴割れ粒
- 作期の前進
- 登熟



出典: TBS NEWS DIG (2023年8月23日(水)) <https://newsdig.tbs.co.jp/articles/-/665930>

適応策 *日本にはすでに複数のソリューションが存在

- ✓ 水管理、施肥管理・最適化
- ✓ 品種の変更 (より熱に強い米、など)
- ✓ 移植日の変更
- ✓ スマート農業化 (衛星データの活用、気候予報の利活用等)
- ✓ 気候変動及び農業保険
- ✓ 新品種の開発・導入



適応策導入への課題

- コスト
- 省力化
- 用水の管理等、地域ぐるみの検討が必要な中取りまとめが困難
- 栽培マニュアル等の不足



高温による不作

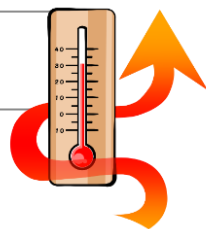
米の生産現場では高温による影響で品質・収量の低下による経済的ダメージが発生

持続可能な農業を阻むものは何か？

高温による影響

⇒ 品質・収量の低下

- ex.
- 白末熟粒
 - 害虫
 - 育成不良
 - 胴割れ粒
 - 作期の前進
 - 登熟



有効な適応策が既に存在

日本には既に複数のソリューションが存在

適応策 * 日本にはすでに複数のソリューションが存在



- ✓ 水管理、施肥管理・最適化
- ✓ 品種の変更（より熱に強い米、など）
- ✓ 移植日の変更
- ✓ スマート農業化（衛星データの活用、気候予報の利活用等）
- ✓ 気候変動及び農業保険
- ✓ 新品種の開発・導入



適応策導入のハードルは資金不足

既に高温による影響で経済的ダメージを受けている中、
適応策に投資できない状況

適応策導入への課題

- コスト
- 省力化
- 用水の管理等、地域ぐるみの検討が必要な
中取りまとめが困難
- 栽培マニュアル等の不足



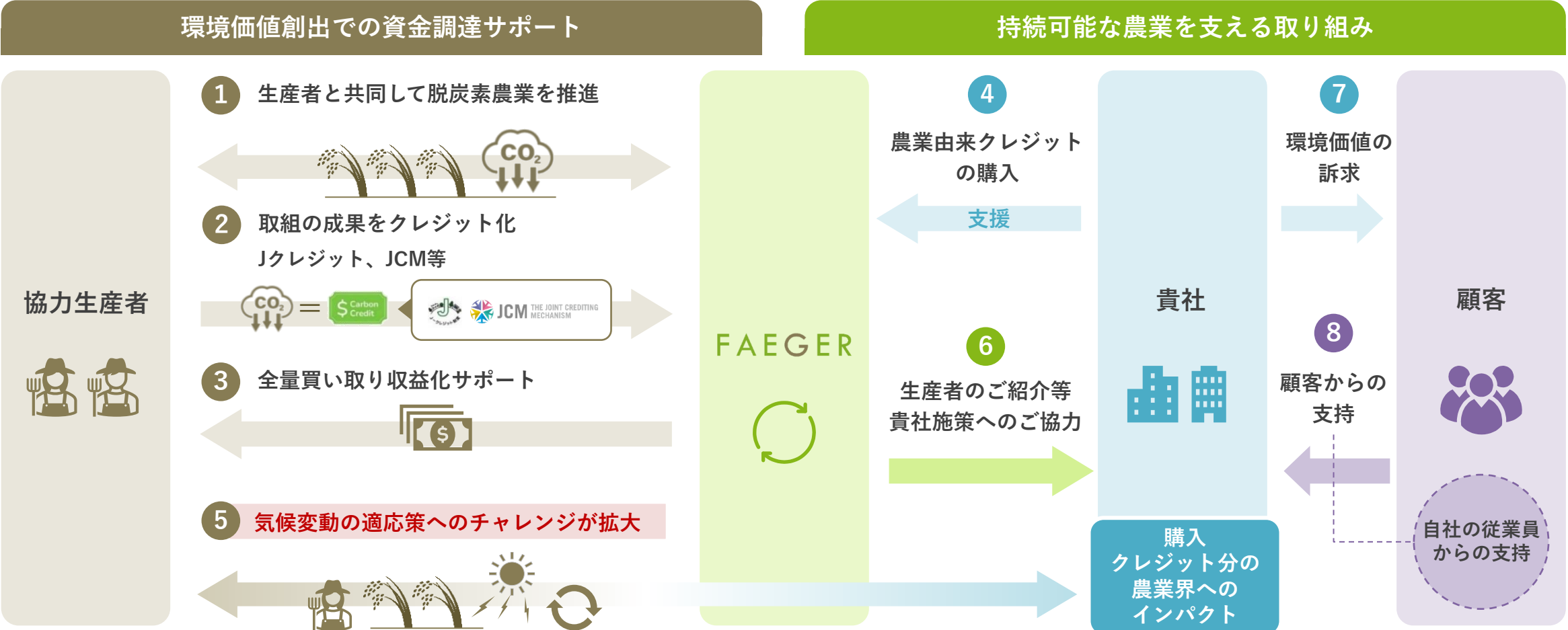


持続的な農業に向けたハードルは

資金

私たちが企業と共にチャレンジしていきたいこと

今まで成し得なかった「日本の持続可能な農業の実現」を日本の企業様と一緒にチャレンジしたい。
 企業やその企業の顧客を巻き込み、日本の農業を前に進めたいと考えております。



カーボנקレジットの質を高める活動①

生成関係者との丁寧な合意形成と申請までの細やかな伴走

カーボנקレジットは地域や農法による違いなど様々な専門知識がなければ質の高い生成ができない側面があります。また、関係者の方が実施や収益について納得の上取り組むことが重要です。弊社では農学・環境博士を含む専門家が申請完了までをフルサポートし、合意形成～申請まで透明性の高い取り組みでクレジットを生成します。

地域の脱炭素化を謳っていくにあたり、透明性は非常に重要な要素です

▶ 透明性の高い説明と合意形成

プロジェクト実施 地域の選定 (スクリーニング)

- 現地の栽培指導委員の方と一緒に収量低下のリスクもふまえてプロジェクト実施地域を選定している

プロジェクト実施 による地域への悪 影響、潜在的な悪 影響の回避

- 農家様や地域JA様、自治体様への合同もしくは個別説明会の実施
- 農家様、JA様・自治体様からプロジェクトへの意見や要望をいただきやすい管理体制
 - － 方法はLINEや電話など



▶ 農家様とフェイガーが行っていること

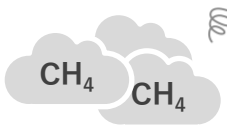
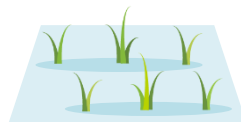
農家様が実施すること

- ① 10日間以上の長期中干しをする
- ② 写真や中干しの記録を取る
- ③ 写真や記録をFAEGERに送る

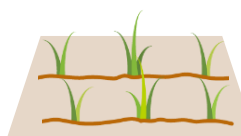
FAEGER

- ① カーボנקレジット申請
- ② 認証取得
- ③ 企業様に販売
- ④ 現金を農家様に還元

通常の中干し



中干しの延長



カーボנקレジットの質を高める活動②

世界最高基準の項目に準じた独自のモニタリング

地域の脱炭素化を謳うにあたり重要になる「本当に脱炭素に資するやり方でクレジットが生成されているのか？」という批判（グリーンウォッシング）に対する対策として、弊社はクレジットの生成過程における独自の厳しいモニタリングを設置。地域・企業様が批判にさらされないためのエビデンスを保有しています。

モニタリング 部分

FAEGER 追加部分

中干の写真（GPSと時間の情報付き）のエビデンス

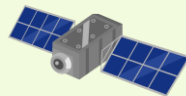
- 来年度より自社システムによって農家さん情報も一緒になる

管理者（フェイガー）＋協業者再度での現地撮影＋写真

- GPS、時間、農家情報も盛り込まれた情報
 - ランダムピックアップで95%信頼性の現地調査
- ※ Verraの現地視察基準と同等

衛星画像による記録

写真でみえないところや現地視察しない農地



農業由来J-クレジット申請基準 （最低ライン）

- 過去2年分の中干の記録
 - 農業日誌で確認
- 中干延長をした後の記録
 - 農業日誌で確認
- 推移測定 of 記録→データ

特別コンテンツ

新潟県津南町 農林振興課様
生産者 株式会社満作様
へのインタビュー

新潟県津南町とフェイガーの関わり



2024年5月

J-クレジットに関する取組拡大に向けた連携協定を締結いたしました。

連携を通じてゼロカーボン戦略を掲げる
新潟県津南町での脱炭素農業の推進と、
農業者への収益向上を目指します。

生産者と企業と地域を繋ぐカーボנקレジット

取り組んで頂いている生産者様や自治体が持つ想いや取り組みの様子を購入企業やその先のエンドユーザーに届けることができるのも弊社のクレジットの特徴です



地方と都市の格差を是正したく議員から最年少町長に
時流に則した改革でより良い町の未来を作りたい

新潟県津南町 町長 桑原悠様

自然環境豊かな土地である津南生まれ、25歳で町議会議員初当選、31歳で当時日本の“最年少町長”として第6代津南町長に就任。現在内閣府男女共同参画計画実行・監視専門委員も務める。結婚出産を経験し、“子供が大人になった時に良い形でこの町を受け継いでもらいたい”、それが町長になった時の思い。町立病院の経営再建を含む様々な改革を実施。「ゼロカーボンの町、つなん」として2050年までにCO2排出量実質ゼロを目指し、町民・事業者・行政が一体となって「脱炭素」に向けての明確な行動指針を2022年に制定。

“これからの時代を創る意識”に強く共感し
フェイガーとの包括連携協定締結へ

VALUE

フェイガーとは最初に代表の石崎と面談。独自のビジネスモデルはもちろんのこと、“農業、社会課題、環境問題といった課題に挑みこれからの時代を創っていくんだ”という強い意識を持った若いリーダーが積極的に活動していること、そこに熱量のあるスタッフが集まってきていることに共感を覚えたことが包括連携協定のきっかけに。
「今年から町で実証実験的にカーボנקレジットの取り組みを進めてもらう中で、生産者のみなさんが“意義あることに取り組んでいる”というプライドを持っていただいているのを感じます。周りの自治体、JAさんからの問い合わせも非常に多くいただいております。今後はクレジットの地産地消モデルやPRも積極的に一緒したいと考えています。」



“家族経営の農家”から
“ビジネスとしての農業”へ

FUTURE

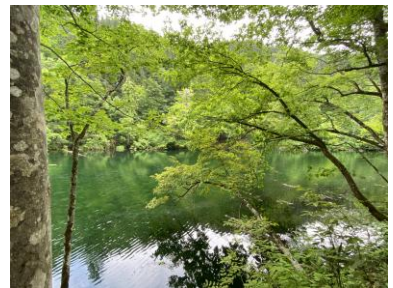
地方の町は閉鎖的なイメージだが、津南町はここ10年で意識が変わってきた。少子高齢化がますます進んで、変わらないといけなとみんなが気づき始め、新しい風を入れようとしている。「津南町は様々な企業・大学とも協定を締結しており、それを通して外交するかのよう強みを把握して周りと連携していくことが大事。その先の人材の育成につながっていくと良いと思っています。」
農業も、今までは家族経営が前提だった。お父さんが主体でお母さんが手伝い、息子が継ぐというのが当たり前だったが、今はスマート化が進んでいるので女性にも参入しやすい環境になっており実際に女性が農業経営に携わる法人も出てきている。
「未来に繋がる農業がしたい」といったリアルな現場の声が叶う環境を整えていく。



もともと水力発電の町
住民の環境への満足度・意識が高い

Background

日本有数の豪雪地帯である津南町は多くの湧水やため池があり、国土交通省が認定する「水の郷百選」に指定されている。そういった大地の恵みを生かし、お米だけではなく、アスパラやとうもろこし、花といった農産物の栽培が盛ん。農業従事者の割合も高い。世の中でカーボニュートラルが必要と言われている中で、気候変動による農作物の影響は生産者はとうに気づいており、自分ごとの課題として捉えている。環境に配慮した農産物は市場において農産物自体が評価されるようになるはずで、町としてもそういった付加価値の創出を進めていく。



生産者と企業と地域を繋ぐカーボנקレジット

取り組んで頂いている生産者様が持つ想いや取り組みの様子を購入企業やその先のエンドユーザーに届けることができるのも弊社のクレジットの特徴です



“ 良好な農業環境を未来に
つなげていかなければならない ”

新潟津南町 株式会社満作 中島孝之様

「近年は品質や収量の低下等、温暖化による異常気象が農業生産に影響を与えている。異常気象に不安を抱える中では、農業を志す人は増えない。農業を志す未来の若者のために、現代の農業者がしっかりと温暖化対策に取り組み、良好な農業環境を未来につなげていかなければならない。そのための一つの取組として手を挙げた。」

“ サラリーマンから専業農家へ
地域の同世代の仲間と一緒に繋げる農業 ”

新潟県津南町 株式会社えん 高波知一郎様

「勤め人を辞めるといった時は奥さんに猛反対されました」と笑いながら振り返る高波さん。農家はどうしてもその年の気候と作物の出来によって収入が左右されるため、会社から決まった金額が毎月入る状況とは全く異なる。それでも、生まれた地で当たり前にあったおいしいお米と風景が高齢化により廃れていく様子を放っておかず、仲間と一緒に農地も非常に限られた中で3年前に会社を立ち上げた。「カーボנקレジットの収入は、乾燥などの設備の充実と、奥さんと約束した“サラリーマン時代の年収を超える”ことに役立てたい。」

復興庁・浜通り復興リビングラボ～サイエンス×官民共創まちづくり～ 令和6年度実証事業の受託について

浜通りの復興に向けて、「脱炭素型高収益稲作体系」の普及を通じた貢献を行っていきます。

プロジェクトの 概要

- 地域で稲作を営む生産者と共に水田の中干し延長によるJクレジットの生成、買取を実施
- Jクレジット生成時に必要な圃場データ収集を水位センサー等の導入により簡易化するモデルを検証し「脱炭素型高収益稲作体系」として普及を目指す
- 当地域から生成されたカーボンクレジットの購入企業とのマッチングによる復興支援

取り組み背景

- 福島県は国内有数のコメの産地
- 震災による浜通り地域の被害は甚大であり、2020年の時点で、被災12市町村の経営耕地総面積20,869 haのうち営農休止面積は17,298 haと、およそ2割の農耕地が営農を再開したのに留まる
- 震災後営農再開が進んでいるものの現在も営農休止農地は多く存在し復興には課題が大きい



農地の脱炭素化を起点として営農休止農地の活用の促進や
農業振興をすすめていく2年間の取り組み

復興庁「浜通り復興リビングラボ」について

- 福島県の浜通り地域等では、住民の皆様の帰還や移住促進に向け、生活環境向上のための様々な取組がこれまで進められてきているところです。この浜通り地域等に、令和5年4月1日、福島国際研究教育機構（Fukushima Institute for Research, Education and Innovation、通称F-REI）が設立されました。F-REI立地に際し、国内外から多くの研究者及びその家族が浜通り地域等に移住・定住することが予想されることもあり、生活環境の向上のための取組の一層の推進が求められています。また、F-REIにより多くの実証事業が浜通り地域等の各地において実施されることとなります。
- 浜通り地域等において、民間企業等の知見を最大限活かしながら、最新のサイエンスやテクノロジーを積極的に活用し、住宅、医療、教育、交通、買物・娯楽等の生活環境に係る地域課題の解消につなげるような取組について考える契機を創出するとともに、浜通り地域等における実証事業受入れ能力向上を支援するため、「浜通り復興リビングラボ」事業が令和5年度より復興庁によって実施されています。



フェイガーPrjから生み出されるソーシャルインパクト・ストーリー

各地の農地の脱炭素化を通じて生み出される様々なソーシャルインパクト
カーボンクレジット購入を通じて企業にストーリーとしてお渡しできるのがフェイガープロジェクトの特徴です

①食糧安全保障の解決に向けた生産性の向上チャレンジ

- 脱炭素活動による農業の収益性改善（廃業を防ぐ、など）
- 次の世代に向けた生産性向上にチャレンジする生産者への支援
- サステナブルな米の流通への貢献

②全国の生産者との接点

- 39都道府県5000人超の生産者への支援
- 生産者それぞれが持つ、農業や食への想い、チャレンジへの支援
- 視察等を通じた顔が見える脱炭素活動

③地域貢献、地域連携

- 復興庁からの受託案件、被災地の脱炭素化など支援が特に必要な地域への貢献
- ゼロカーボンを目指す地域との有機的な連携
- 地域のステークホルダーを巻き込んだ地産地消による脱炭素活動



日本の持続可能な農業を、前へ

私たちは企業のみなさまと共に、地域の米作りのサステナビリティにチャレンジしていきます

FAEGER